



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

滋賀県

景況調査結果報告書

2019年度第3四半期
(2019年10～12月)

目次

I.調査結果.....	2
II.今期の状況.....	3
III.規模別・業種別.....	8
IV.回答企業のコメント.....	22

滋賀県商工観光労働部商工政策課

I. 調査結果



【調査概要】(調査は11月に実施しています。)

滋賀県では、四半期毎に県内の景気動向の把握を目的として景況調査を実施しております。今期(2019年10～12月期)の調査結果の概要は次のとおりです。

また、滋賀県景況調査報告書については、滋賀県公式ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

今期の県内企業の景況は、業況、売上、経常利益の各DIはマイナス幅が拡大した。生産DIはマイナス幅が縮小した。雇用の水準DIマイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

来期(2020年1～3月期)の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益の各DI全てにおいてマイナス幅が拡大する見通し。雇用の水準DIについてはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

【調査方法】

①調査期間………2019年11月

②調査企業数………県内の事業所(750社)

③調査方法………郵送アンケート

④回答企業数……406社(回答率54.1%)

(社)

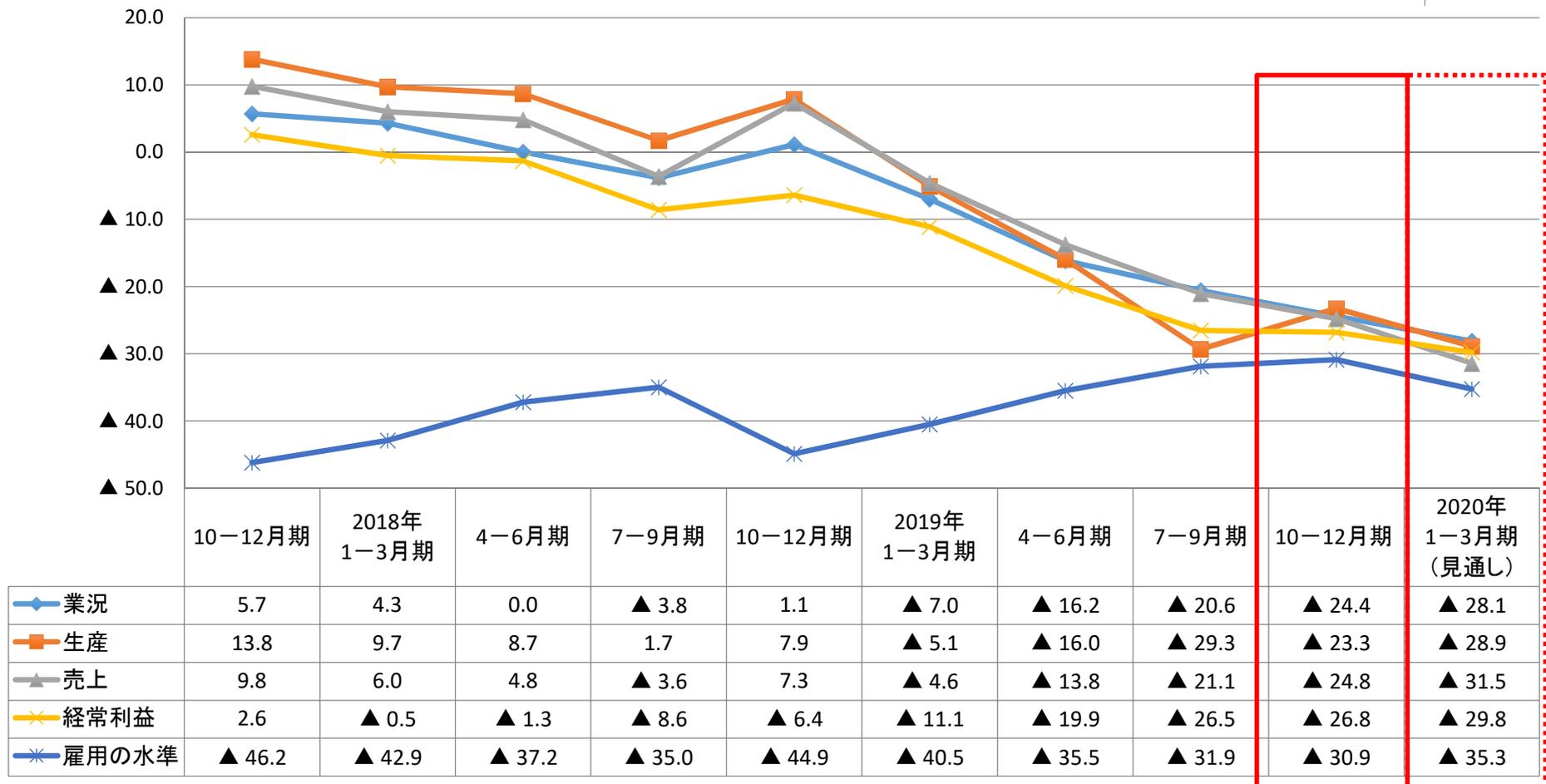
	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	29	3	1	4	17	54
中小企業	160	42	20	32	98	352
合計	189	45	21	36	115	406
産業別比率	46.6%	11.1%	5.2%	8.9%	28.3%	

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス):「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から、「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。

今期(実績)の業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは前年同期と比較。資金繰りDIは3か月前と比較。採算の水準、引合、雇用の水準の各DIは今期水準の軸を用いて算出。

来期の見通しについては、業況、生産、売上、経常利益、在庫数量の各DIは3か月後の前年同期と比較。資金繰りDIは3か月後水準の軸を用いて算出。採算の水準、引合、雇用の水準DIは3か月後水準の軸を用いて算出。

Ⅱ.各種DIの動き(実績)と来期の見通し



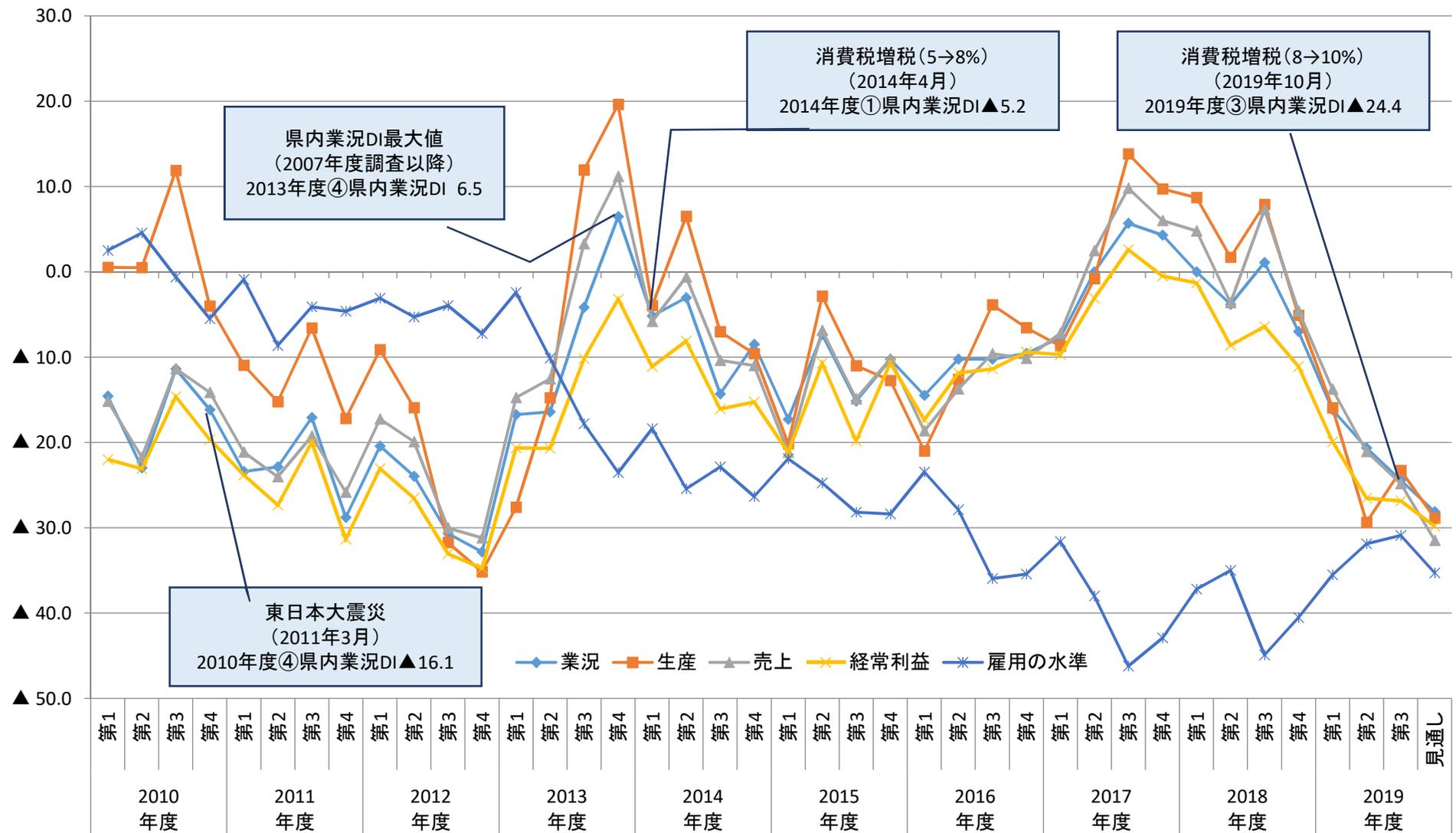
今期(2019年10~12月期)の県内企業の景況(前期(2019年7~9月期)との比較)

- ・業況、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大した。
- ・生産DI: マイナス幅が縮小した。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が縮小し、不足感が弱まった。

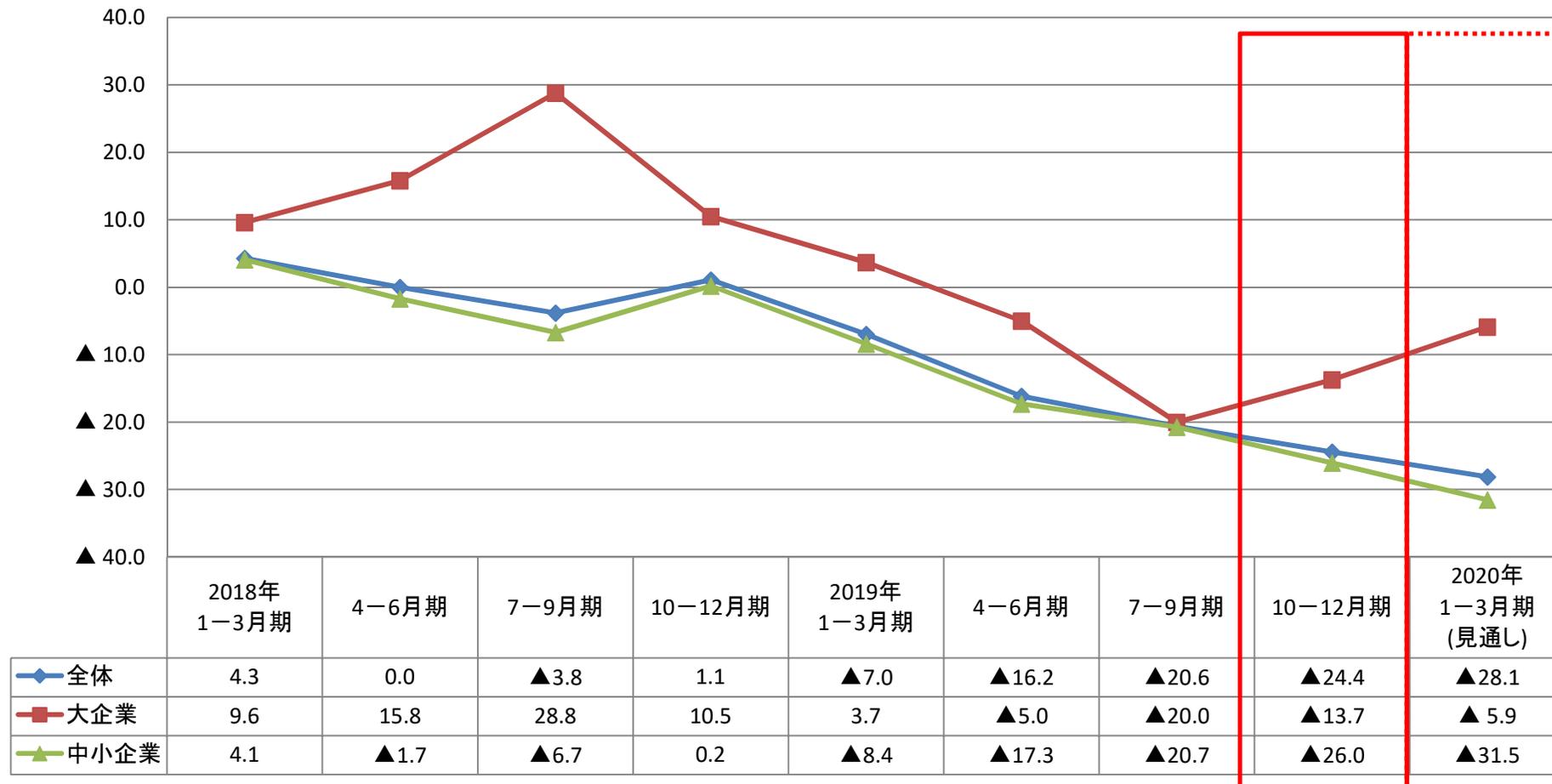
来期(2020年1~3月期)の見通し

- ・業況、生産、売上、経常利益の各DI: マイナス幅が拡大する見通し。
- ・雇用の水準DI: マイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

Ⅱ .DIの推移：2010年度第1四半期～2019年度第3四半期

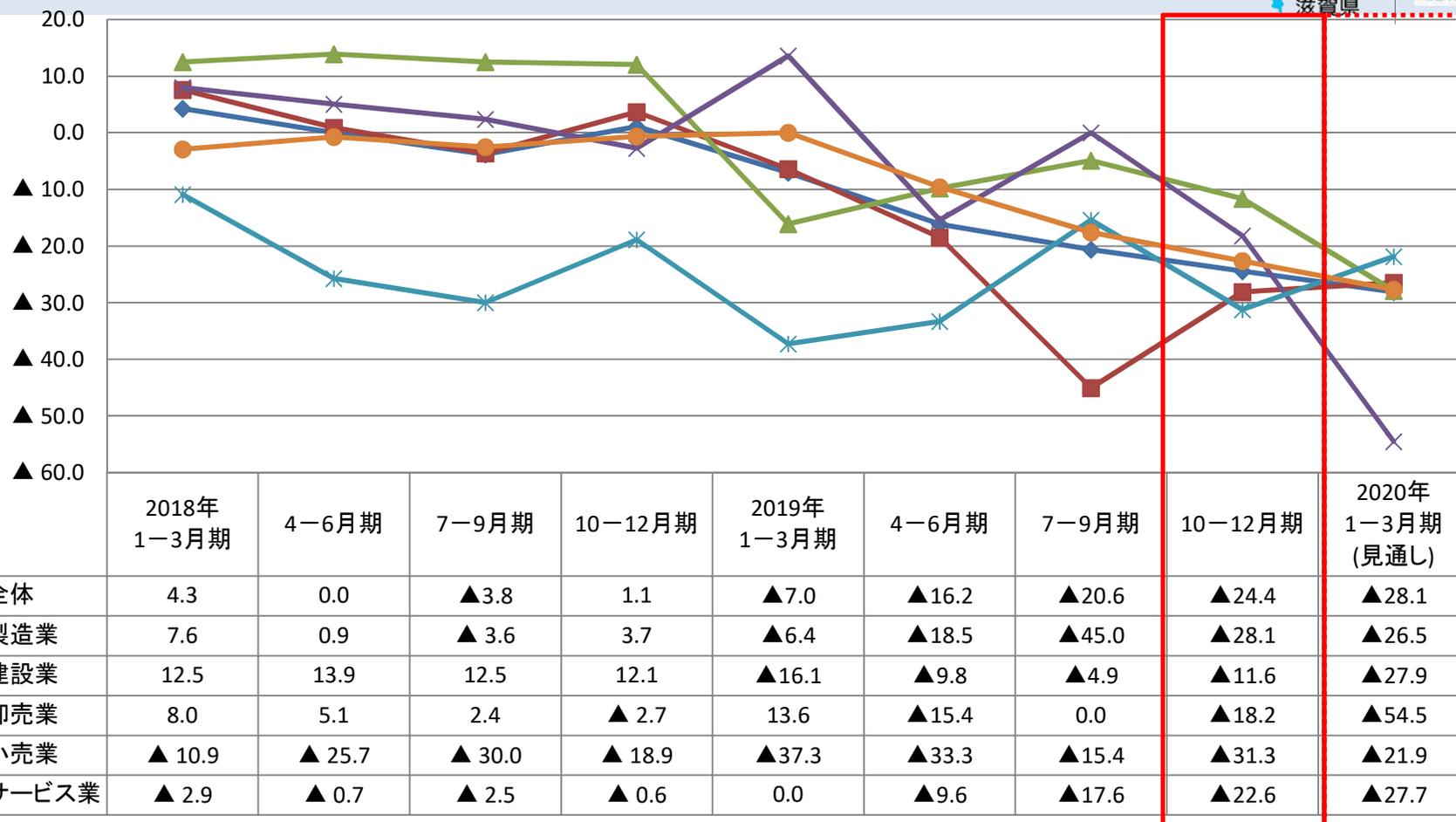


Ⅱ. 企業規模別業況の動き(実績)と来期の見通し



- ・全体の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・大企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・中小企業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.業種別業況の動き(実績)と来期の見通し



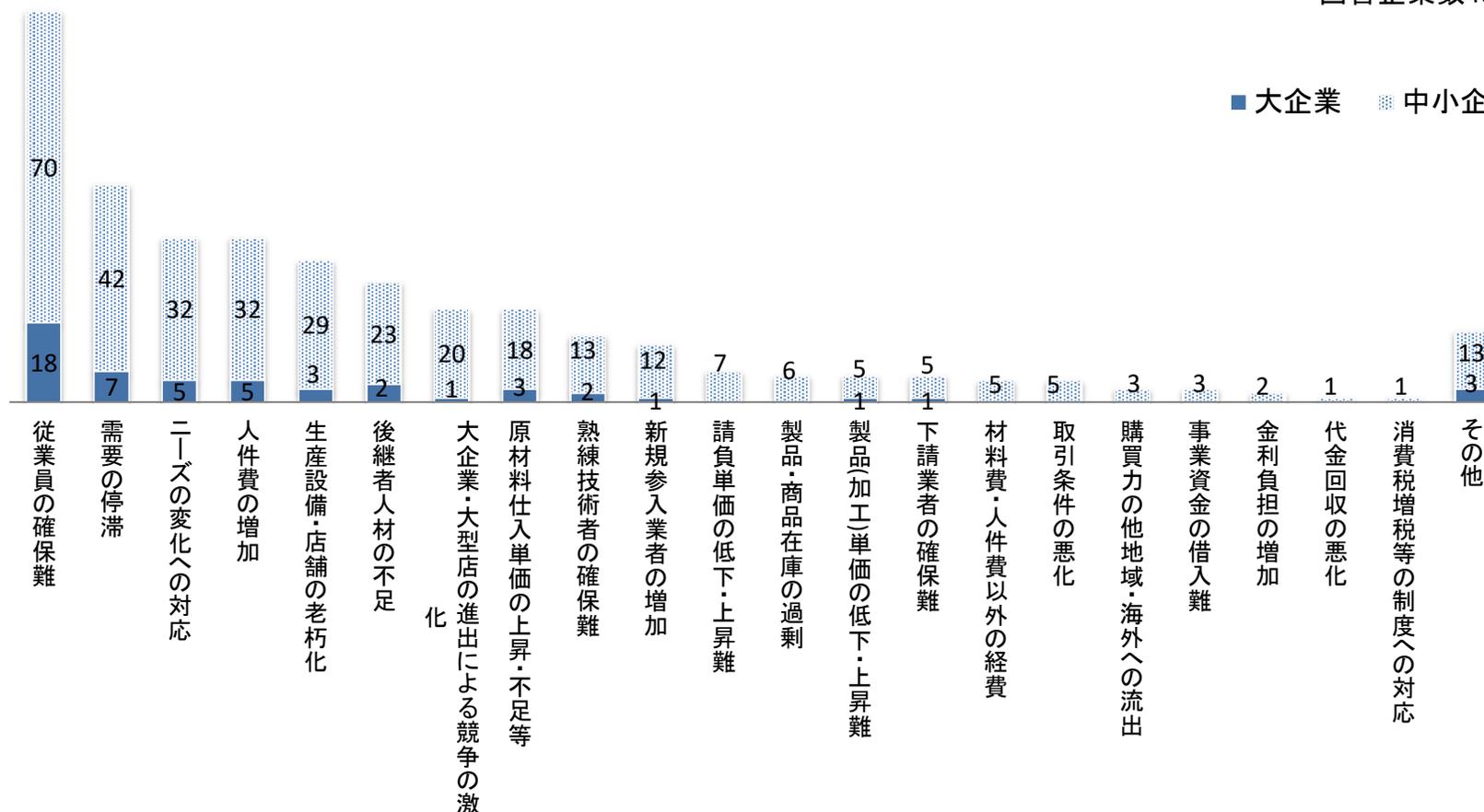
- ・製造業の業況DIは前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・建設業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・卸売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・小売業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・サービス業の業況DIは前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅱ.経営上の問題点



回答企業数401社
(件)

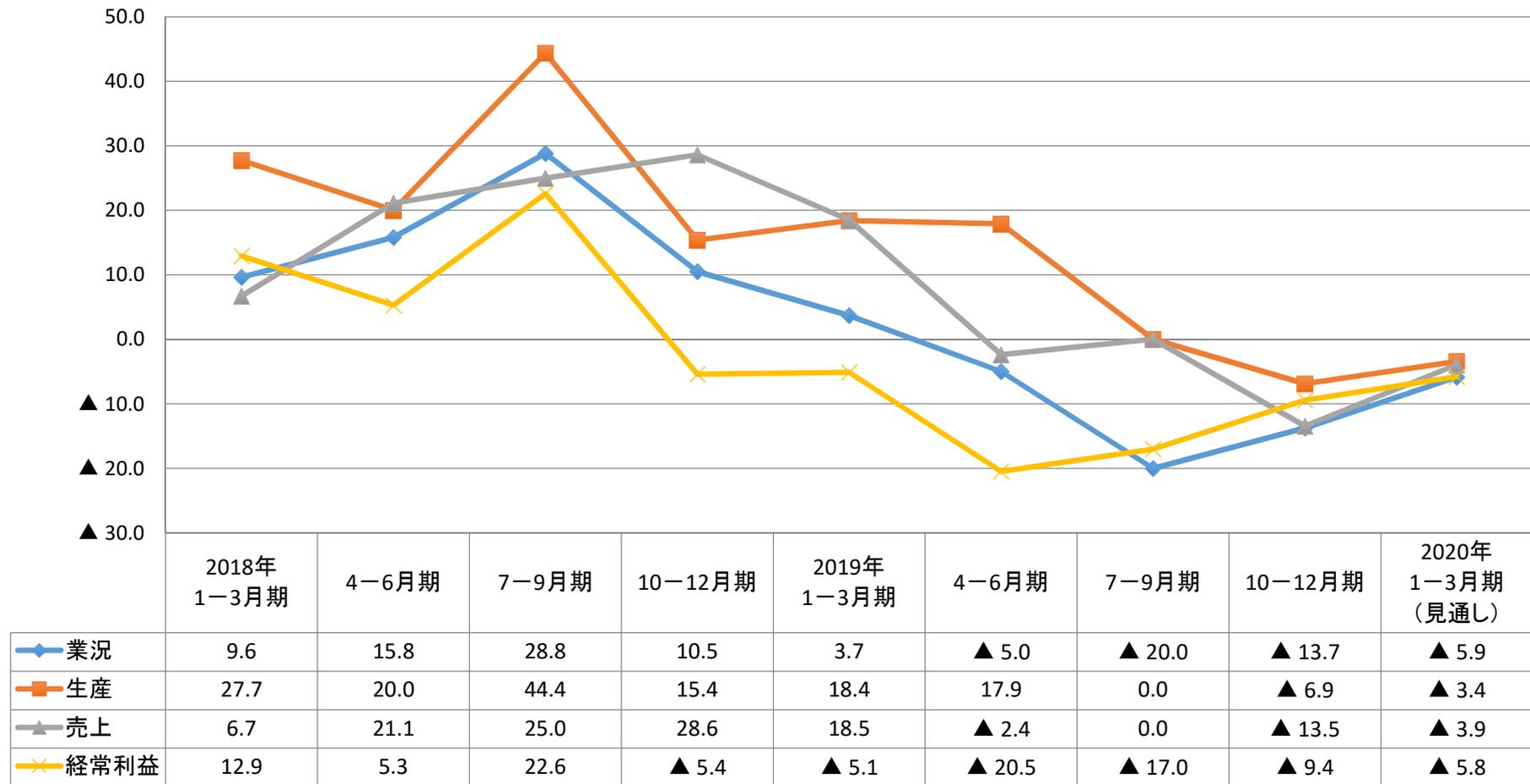
■ 大企業 ■ 中小企業



- ・全体:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「ニーズの変化への対応」「人件費の増加」の順となっている。
- ・大企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「ニーズの変化への対応」「人件費の増加」の順となっている。
- ・中小企業:「従業員の確保難」が最多となっており、「需要の停滞」「ニーズの変化への対応」「人件費の増加」の順となっている。

Ⅲ.【大企業】①

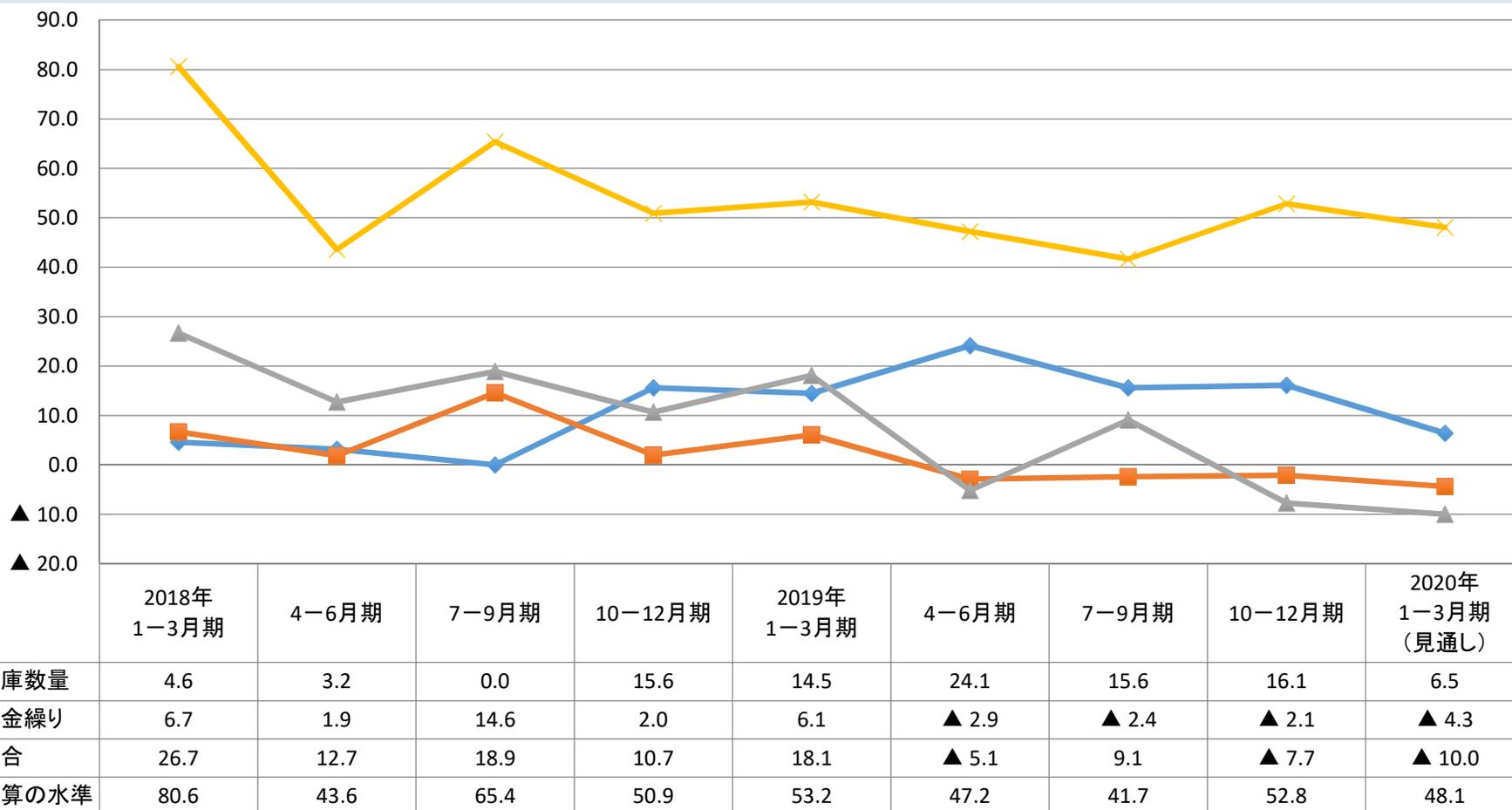
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲13.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲5.9と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・生産DIは▲6.9と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲3.4と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲13.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲3.9と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲9.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲5.8と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【大企業】②

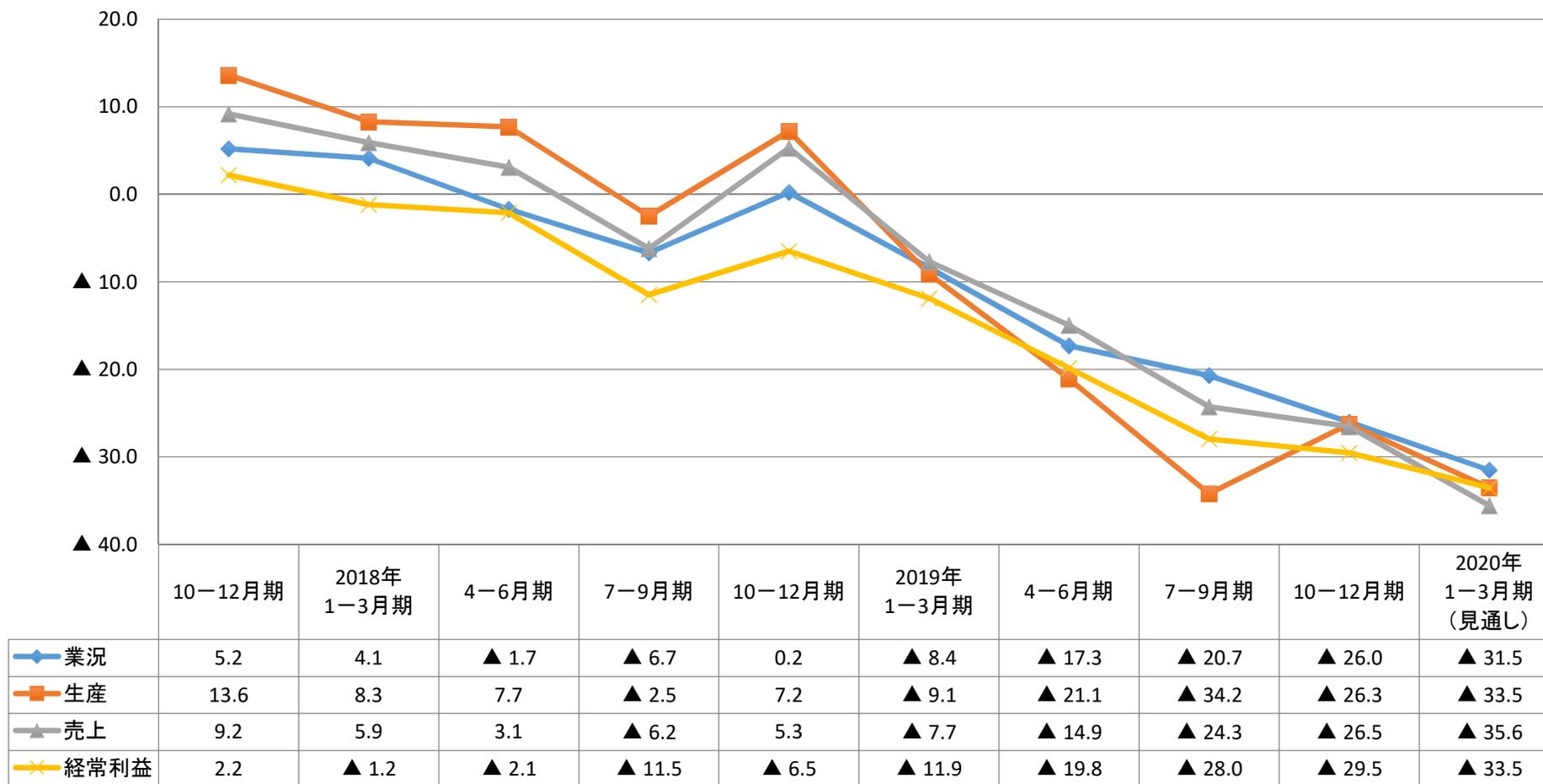
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは16.1と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は6.5と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲2.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲4.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲7.7と、前期に比べプラスからマイナスに転じた。来期は▲10.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは52.8と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は48.1と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【中小企業】①

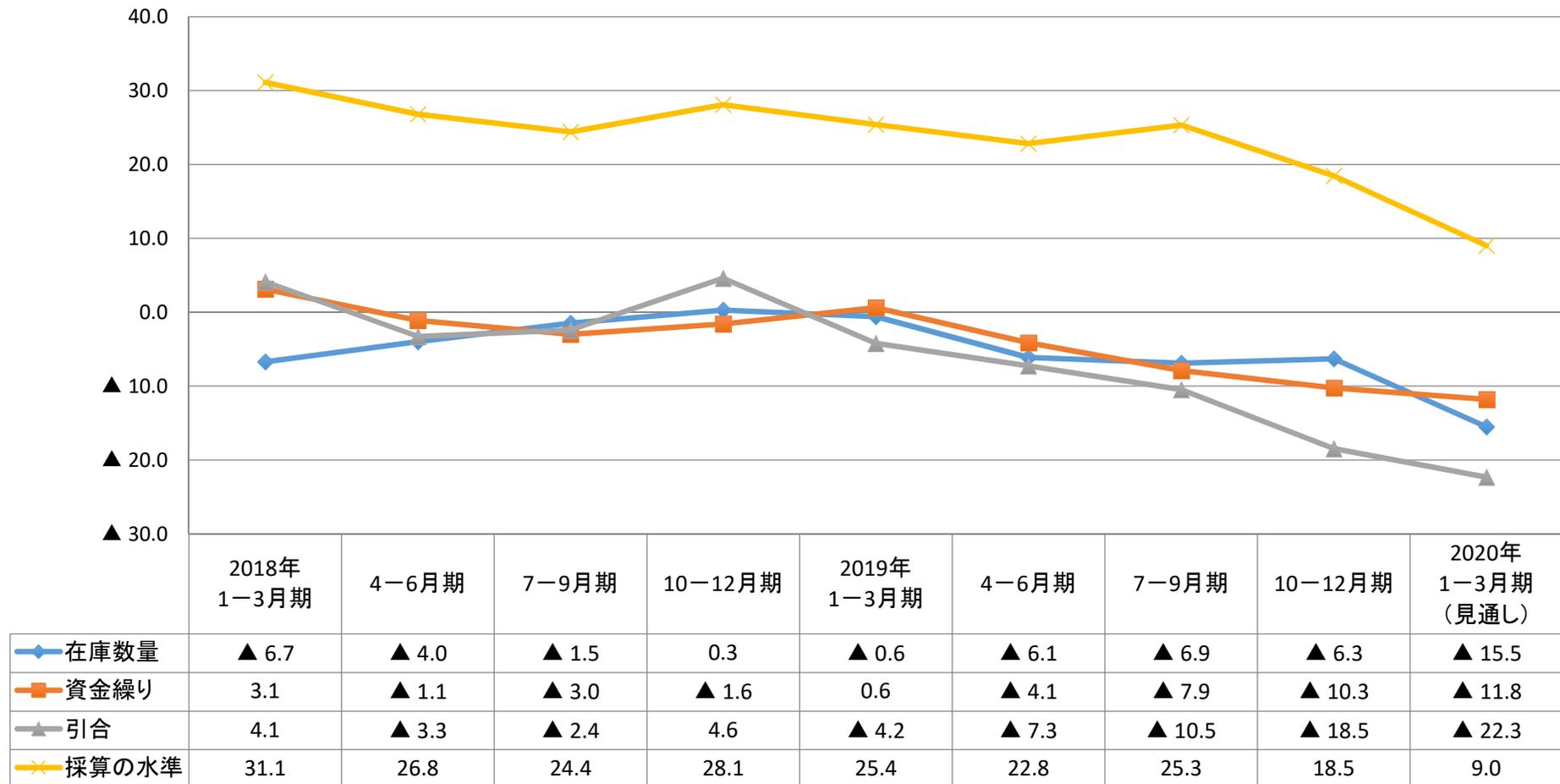
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲26.0と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲31.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・生産DIは▲26.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲33.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲26.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲35.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲29.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲33.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【中小企業】②

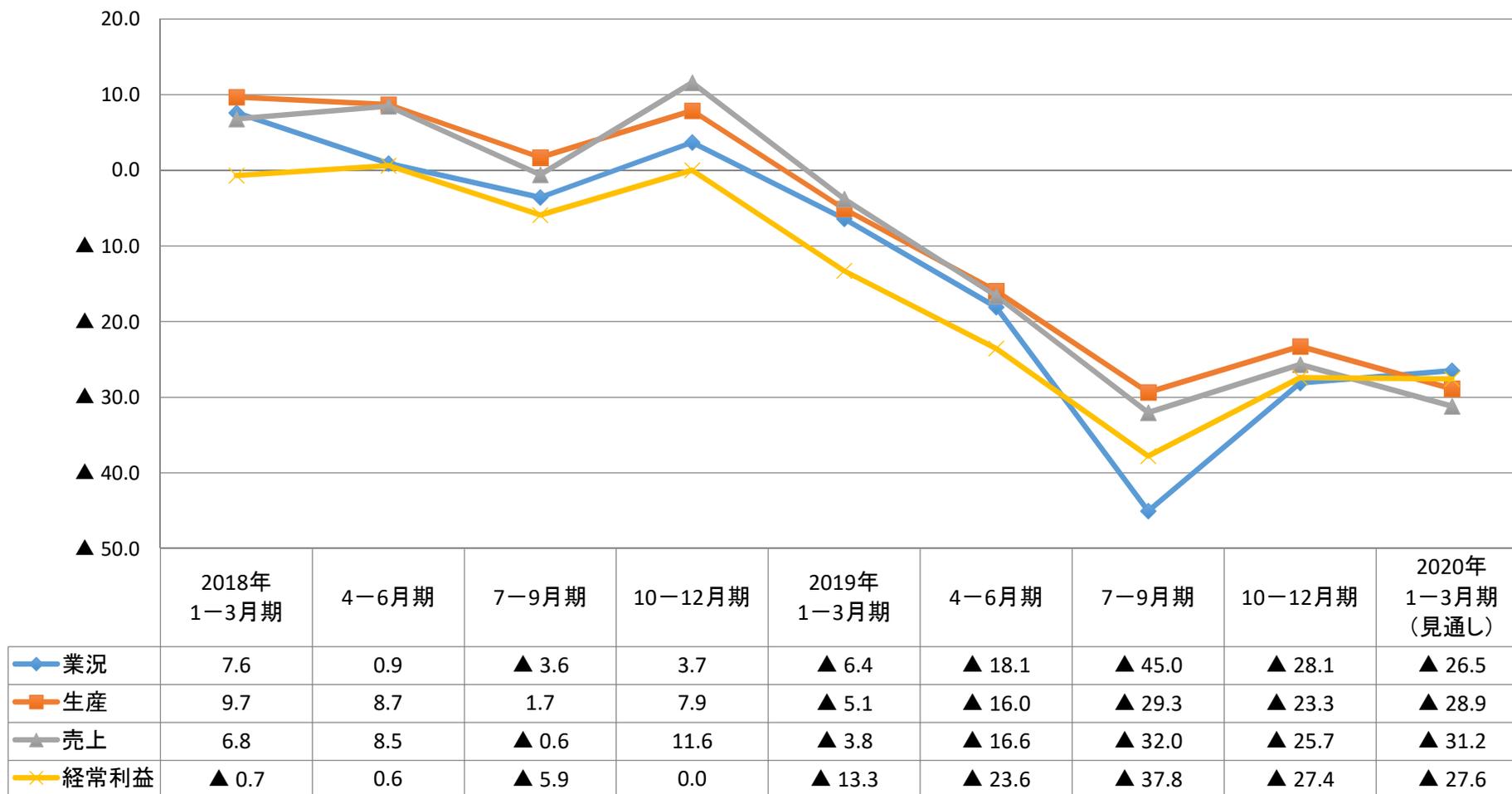
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲6.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲15.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲10.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲11.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲18.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲22.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは18.5と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は9.0と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【製造業】①

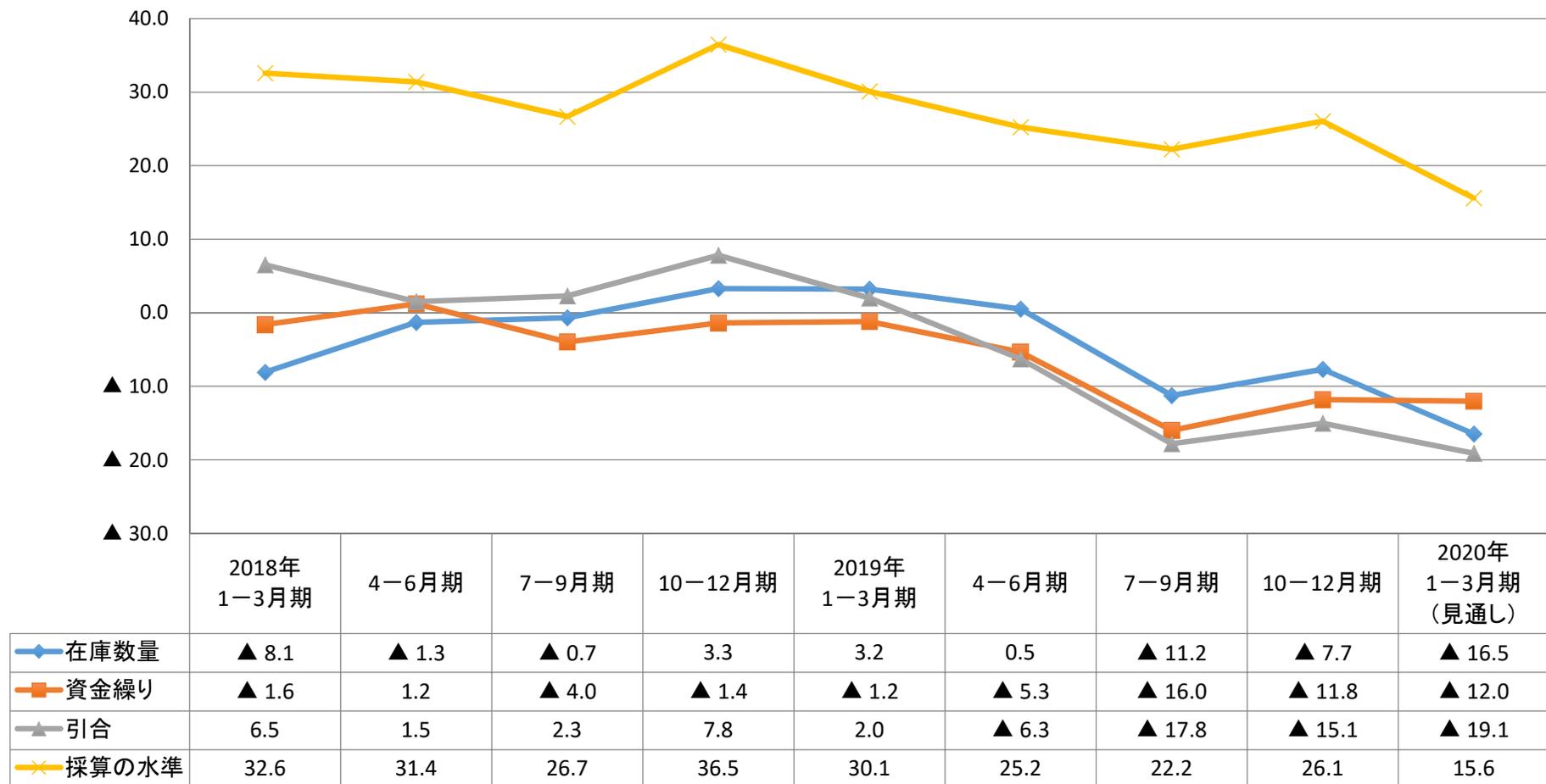
業況・生産・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲28.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲26.5と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・生産DIは▲23.3と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲28.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲25.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲31.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲27.4と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲27.6と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【製造業】②

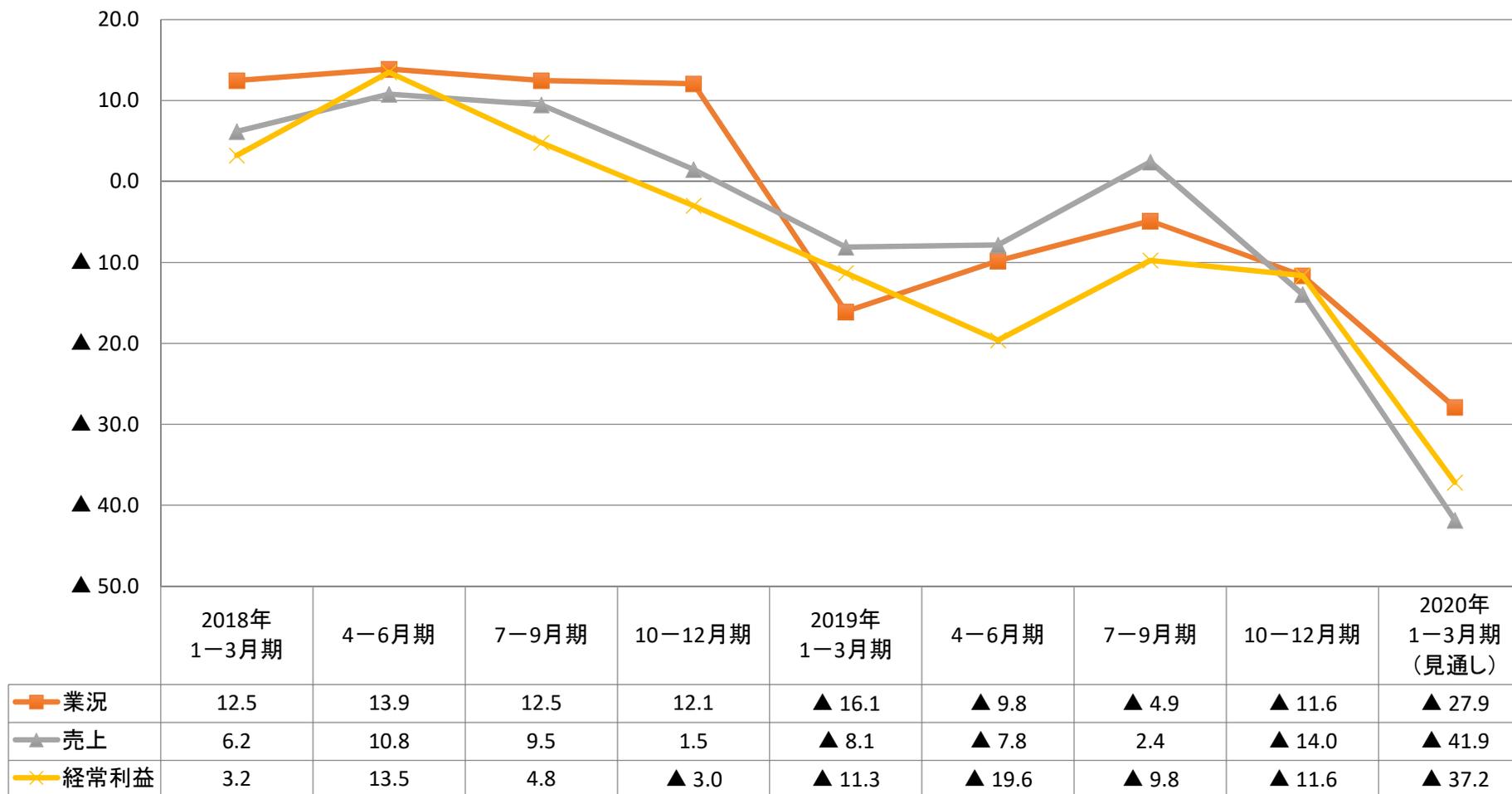
在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・在庫数量DIは▲7.7と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲16.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・資金繰りDIは▲11.8と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲12.0と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲15.1と、前期に比べマイナス幅が縮小した。来期は▲19.1と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは26.1と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は15.6と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【建設業】①

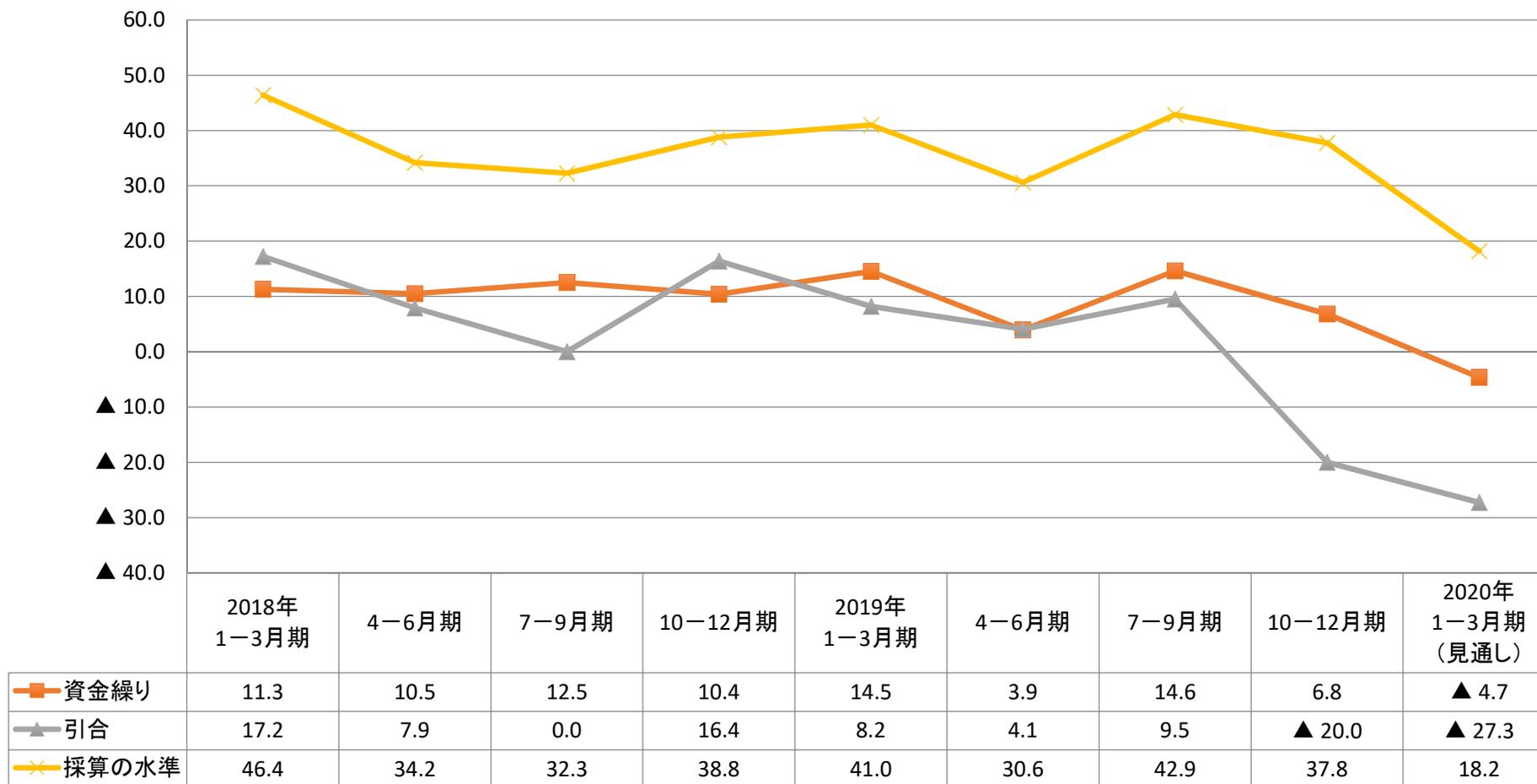
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲11.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲27.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲14.0と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲41.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲11.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲37.2と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【建設業】②

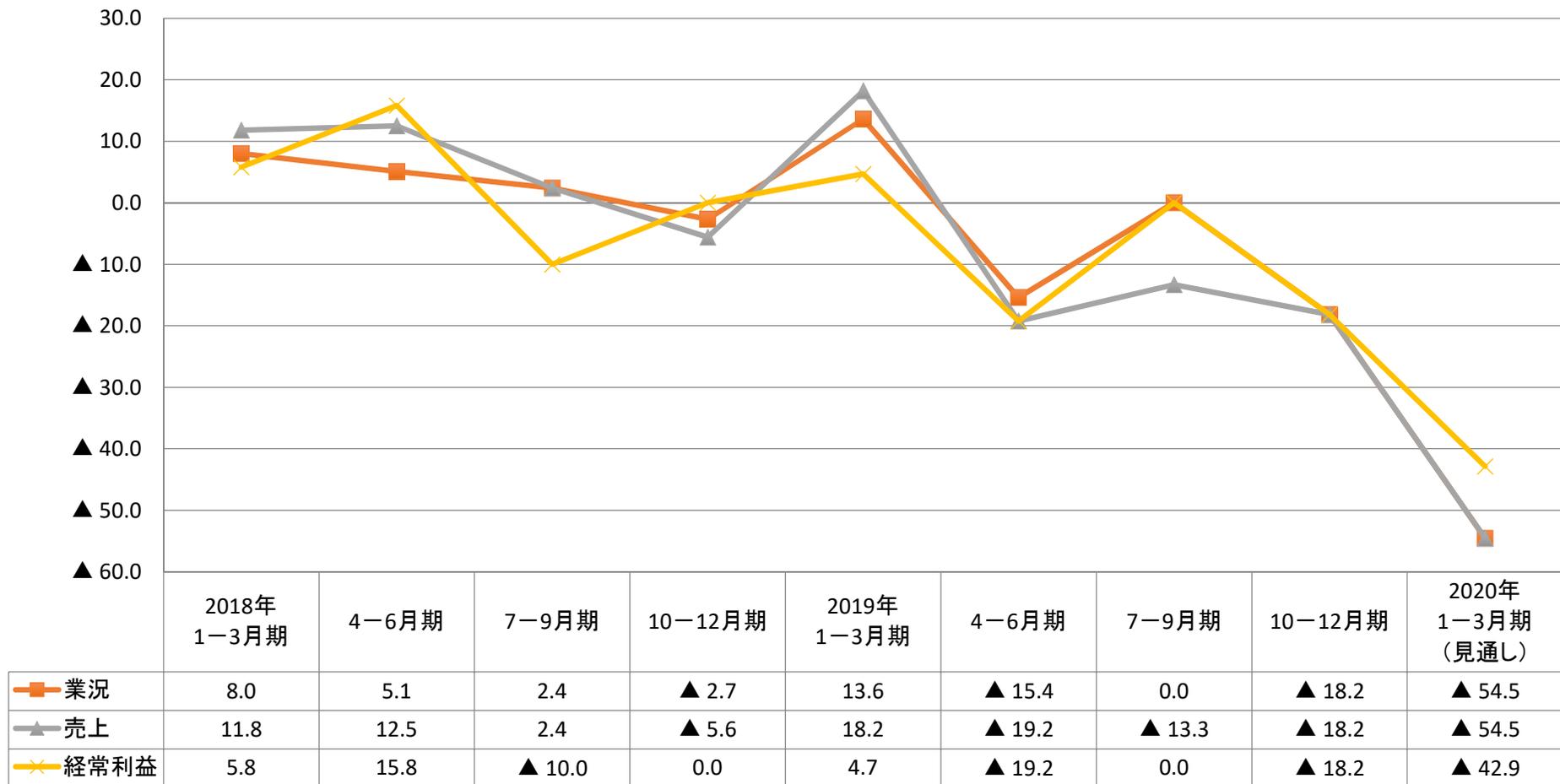
資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは6.8と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は▲4.7と、今期に比べプラスからマイナスへ転じる見通し。
- ・引合DIは▲20.0と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲27.3と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは37.8と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は18.2と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【卸売業】①

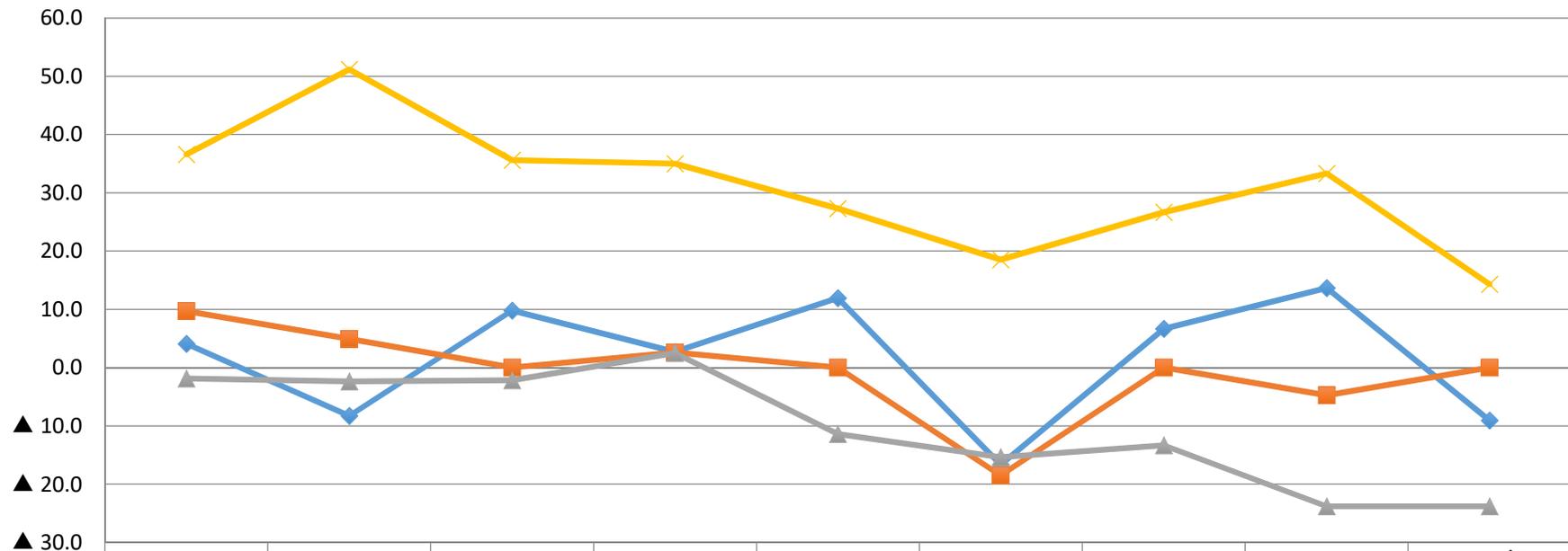
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲18.2と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲54.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲18.2と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲54.5と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・経常利益DIは▲18.2と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲42.9と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【卸売業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し

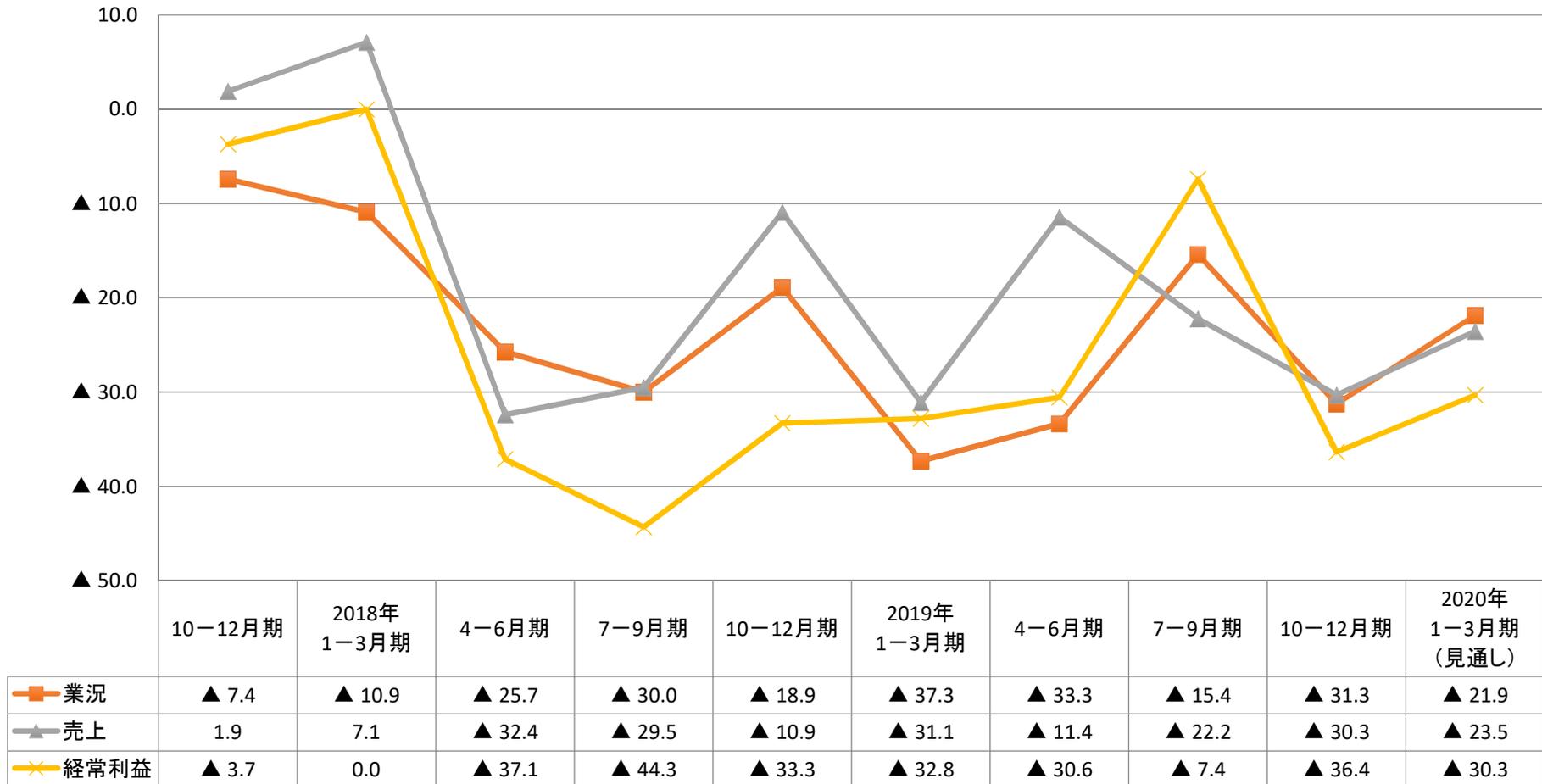


	2018年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期 (見通し)
◆ 在庫数量	4.1	▲ 8.3	9.8	2.7	11.9	▲ 16.7	6.7	13.6	▲ 9.1
■ 資金繰り	9.7	4.9	0.0	2.6	0.0	▲ 18.5	0.0	▲ 4.8	0.0
▲ 引合	▲ 1.9	▲ 2.4	▲ 2.2	2.5	▲ 11.4	▲ 15.4	▲ 13.3	▲ 23.8	▲ 23.8
✕ 採算の水準	36.6	51.2	35.6	35.0	27.3	18.5	26.7	33.3	14.3

- ・在庫数量DIは13.6と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は▲9.1と、今期に比べプラスからマイナスに転じる見通し。
- ・資金繰りDIは▲4.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は0.0と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・引合DIは▲23.8と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲23.8と、今期と変わらない見通し。
- ・採算の水準DIは33.3と、前期に比べプラス幅が拡大した。来期は14.3と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【小売業】①

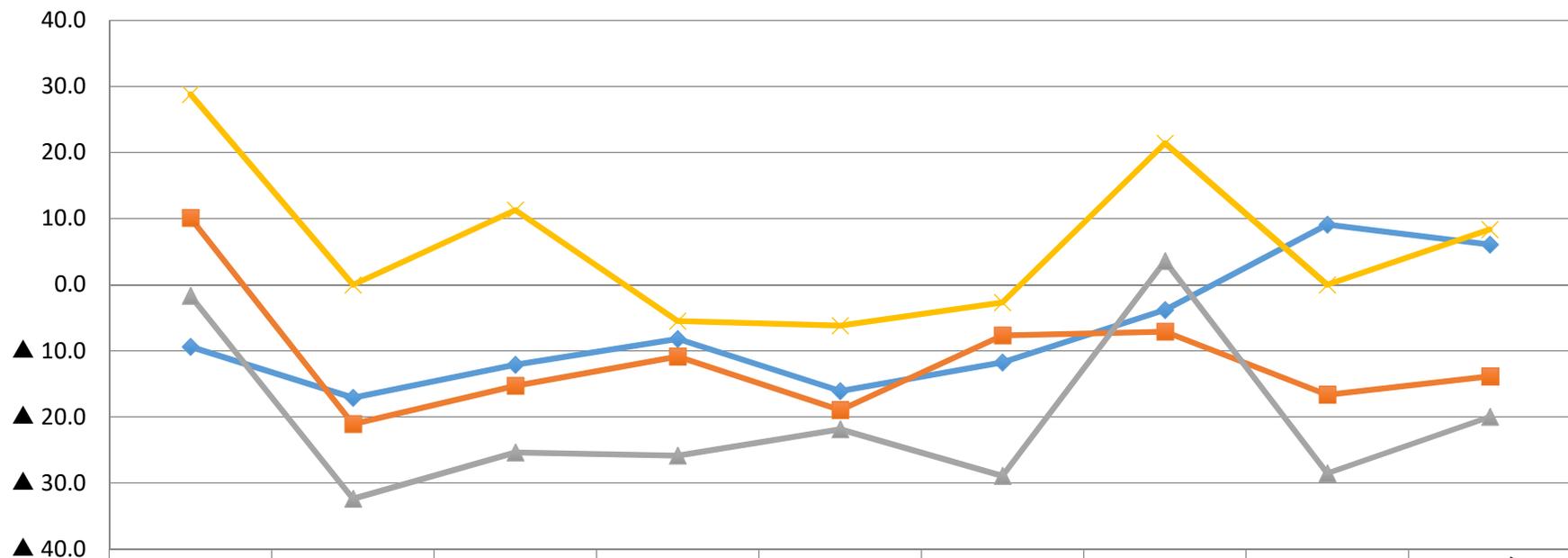
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲31.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲21.9と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・売上DIは▲30.3と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲23.5と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲36.4と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲30.3と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【小売業】②

在庫数量・資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し

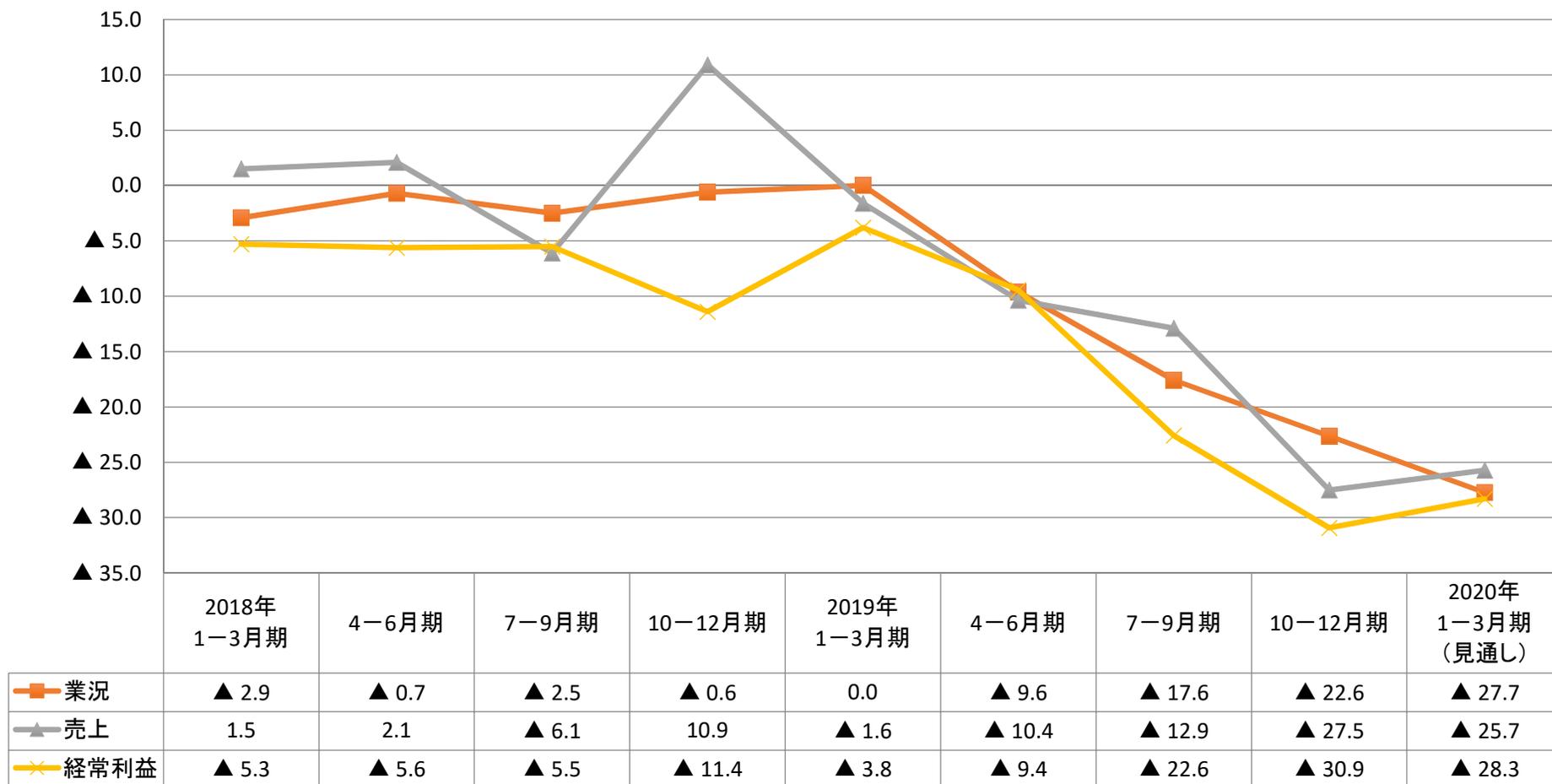


	2018年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2019年 1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年 1-3月期 (見通し)
在庫数量	▲ 9.4	▲ 17.1	▲ 12.1	▲ 8.2	▲ 16.1	▲ 11.8	▲ 3.8	9.1	6.1
資金繰り	10.1	▲ 21.1	▲ 15.3	▲ 10.9	▲ 19.0	▲ 7.7	▲ 7.1	▲ 16.7	▲ 13.9
引合	▲ 1.7	▲ 32.4	▲ 25.4	▲ 25.9	▲ 21.9	▲ 28.9	3.6	▲ 28.6	▲ 20.0
採算の水準	28.8	0.0	11.3	▲ 5.5	▲ 6.2	▲ 2.7	21.4	0.0	8.3

- ・在庫数量DIは9.1と、前期に比べマイナスからプラスへ転じた。来期は6.1と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。
- ・資金繰りDIは▲16.7と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲13.9と、マイナス幅が縮小する見通し。
- ・引合DIは▲28.6と、前期に比べプラスからマイナスへ転じた。来期は▲20.0と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・採算の水準DIは0.0と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は8.3と、今期に比べプラス幅が拡大する見通し。

Ⅲ.【サービス業】①

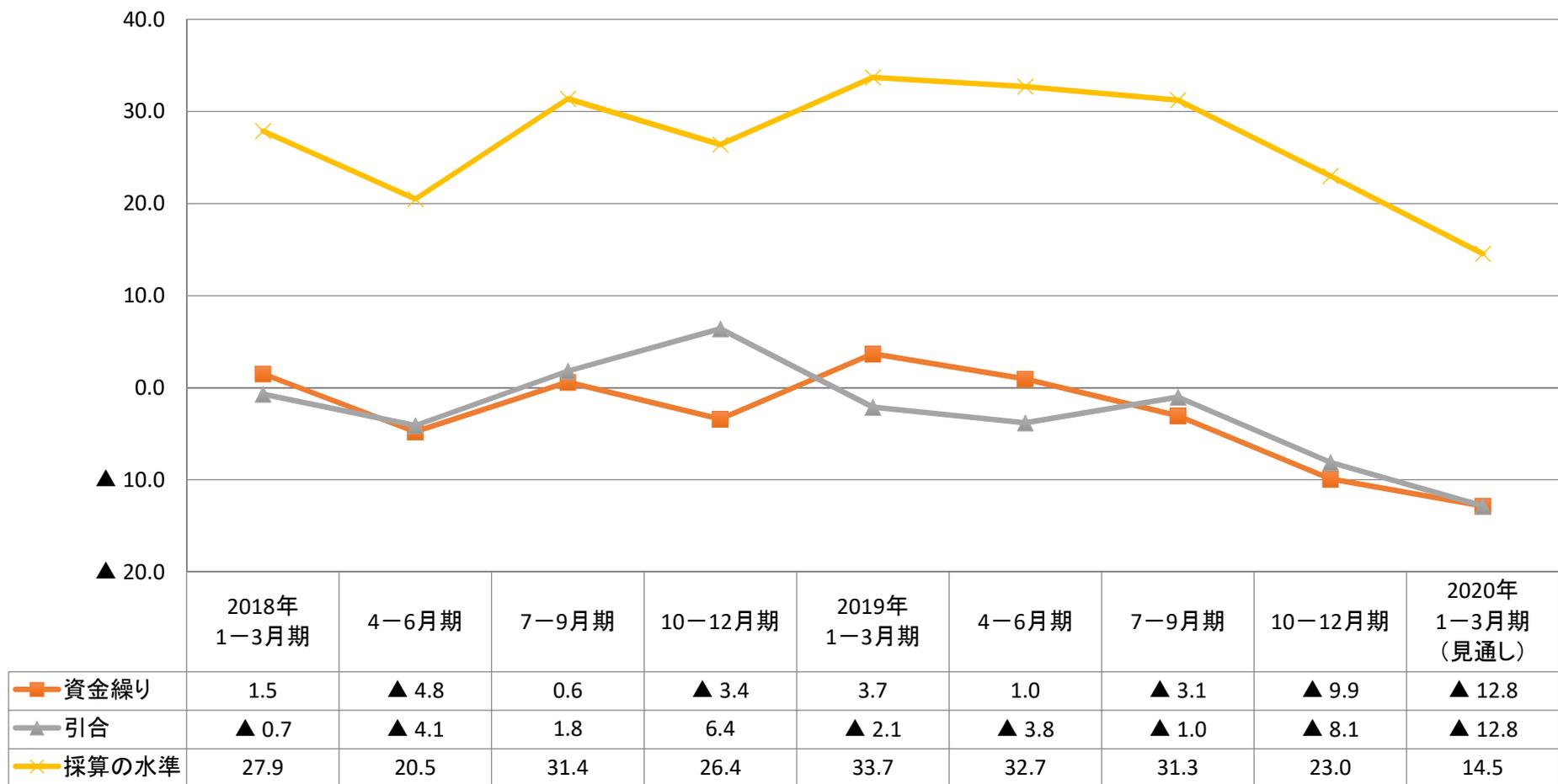
業況・売上・経常利益の動き(実績)と来期の見通し



- ・業況DIは▲22.6と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲27.7と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・売上DIは▲27.5と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲25.7と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。
- ・経常利益DIは▲30.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲28.3と、今期に比べマイナス幅が縮小する見通し。

Ⅲ.【サービス業】②

資金繰り・引合・採算の水準の動き(実績)と来期の見通し



- ・資金繰りDIは▲9.9と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲12.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・引合DIは▲8.1と、前期に比べマイナス幅が拡大した。来期は▲12.8と、今期に比べマイナス幅が拡大する見通し。
- ・採算の水準DIは23.0と、前期に比べプラス幅が縮小した。来期は14.5と、今期に比べプラス幅が縮小する見通し。

IV.回答企業のコメント



【プラスの判断をした企業】

- ・繊維系は中国景気の影響を受けるが、電子材料系は好調。（化学繊維製造業）
- ・生產品目の拡大により増加傾向にある。（印刷インキ製造業）
- ・今期はオリンピック関連受注が上乘せとなっていたが、来期はリセッションが予想される。（建築金物製造業）
- ・警備需要が多く、単価アップの追風もあり業務拡大が見込める。（警備業）

【マイナスの判断をした企業】

- ・得意先からの受注が減ってきている。米中貿易摩擦の影響等。（金属部品製造業）
- ・消費税10%以降、受注が大きく落込んでいる。（陶器用上薬製造業）
- ・中国景気の悪化で受注、売上減。（資材織物製造業）
- ・米中貿易摩擦の影響が大きい。（電気工事建設業）
- ・消費税増税の影響が徐々に現れる。（建設資材卸売業）
- ・消費税の駆け込みはなかったが落込みはあった。（自動車販売小売業）
- ・消費税増税の影響があり売上額は減少している。（宝飾品小売業）
- ・大手企業による価格競争激化。（機械器具小売業）
- ・暖冬による暖房用燃料販売量の減少。（燃料小売業）
- ・県外のホテル増加の影響がある。（ホテル・宿泊サービス業）
- ・中国景気悪化の影響で得意先の生産が停滞中。運送量が減少している。（一般貨物運送事業）
- ・対米、対中の貿易取引に見通しがつかず、悪化傾向であると感じている。（業務請負サービス業）

【その他】

- ・米中貿易摩擦を主因とする電子部品の世界市況悪化の影響は継続中。5G関連市場に期待も全体としては受注・売上ともに微増の見通し。（電子部品機械器具製造業）
- ・人材不足により新規の仕事を取りに行けない。（土木建設業）
- ・消費税増税の影響が読めない。（電気機械器具卸売業）
- ・賃金上昇と増税により、先行き不安。（警備サービス業）
- ・物流費のコスト増により利益減少。（倉庫サービス業）
- ・インターネットの普及による価格競争により苦戦。（自動車電装品修理サービス業）
- ・消費税増税により、今後荷動きが悪くなると思われる。（運送サービス業）